

件

建武元年十二月二十一日

彈正忠行 花押

宇禮志野六郎殿 直

〔大友文書〕雜訴決斷所牒 豊前國衙

狹間大炊四郎入道正供申當國御。杳。村。地頭職 泰家法事

牒。任。去。月。二。十。五。日。給。旨。宜。沙。汰。居。正。供。於。下。地。之。狀。牒。送。如。件。以。牒。

建武元年十二月二十二日

左少史高橋朝臣 春 俊判

〔豊前志 五 仲津郡〕豊日別國魂宮 略 中 重春云 略 中 吾が友神宗定 當社祠 官也 祠が所藏せる小早川隆景主の

制札の文云、

禁制 草場村 官幣大神宮

右諸軍勢甲乙人濫妨狼藉并竹木採用之事堅令停止畢若於背此旨者可處嚴科者也仍下知如

件

天正十五年二月六日

左衛門佐 花押

〔西遊雜記〕小倉の城は細川三齋卿の築き給ひし所にて要害よき城なり 主圖合結の圖に違ふ事なし

新城故にさしての舊跡なし産物に小倉木綿といふあり他國になき上品の木綿也賣買には甚だ稀也火打あり是も産物とし價金一分迄の火打有火の出る事尤妙也

〔安西軍策 六〕豊前小倉城合戦并中國勢九州渡海事

天正十四年九州先手之儀毛利三家可有發向之旨秀吉公ノ命ヲ承先輝元朝臣ヨリ三浦兵庫ヲ爲大將三刀屋彈正左衛門桂兵部福間彦右衛門等ヲ先トシテ三千餘騎豊前小倉へ差渡門司ノ城ニ入置給カ、リケル處ニ高橋ガ端城小倉ノ城ヨリ足輕ヲ出シ迫合ケル間先小倉ノ城ヲ攻